

日常点検について

日常点検は、毎日、自動車をご使用いただく前に行ってください。ただし、一部の項目は走行距離や運行時の状態などから判断し、適切な時期に実施することになっておりますので、長距離ドライブの前や給油時、洗車時を目安に行ってください。

日常点検は、自動車の構造と装置について基礎的な知識をお持ちの方であれば、ご自身で行っていただけます。

なお、点検の結果、異状が認められたときは、ただちにレクサス販売店で点検・整備をお受けください。

警告、注意、知識について



警告

ここに記載されていることを守られないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。



注意

ここに記載されていることを守られないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。



知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知つておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

安全のためにお読みください

■ 点検の準備・場所

- 地面が水平で、周囲の安全が確保できる場所をお選びください。
- 傾斜した場所では行わないでください。お車が動きケガをするおそれがあります。また、液量を点検する場合は、正しい測定ができません。
- パーキングブレーキをかけ、必ず輪止めをしてください。パーキングブレーキが十分にかけられていなかつたり、輪止めをしないとお車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ボデーの端部などで手にケガをされないように軍手などをご利用ください。

■ モータールーム内の点検

- モータールーム内の点検を行うときは、必ずパワースイッチをOFFにしてください。READYインジケーターが点灯した状態で、EVシステムなどの電気系統に触れると感電するおそれがあります。
- 高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）およびコネクターには触れないでください。やけどや感電など生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- パワースイッチをOFFにした直後は、ラジエーターなどの高温部には触れないでください。やけどするおそれがあります。
- モータールーム内にものを置かないでください。特に紙や布など燃えやすいものを置き忘れると、出火するおそれがあります。
- ホース配管、配線などをはずさないでください。故障の原因になるおそれがあります。

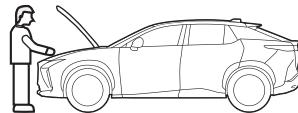
日常点検のしかた

「点検順序と点検項目」にしたがって日常点検を実施し、日常点検記録に結果を記入します。

点検順序と点検項目

* 車種によって搭載位置が異なります。詳しくは取扱説明書をご覧ください。

■ モータールーム



1. ブレーキの液量
2. 補機/バッテリーの液量*
3. 冷却水の量(駆動用バッテリー、インバータ)
4. 冷却水の量(ヒータ)
5. ウィンドウォッシャーの液量*



■ 車のまわり



6. タイヤの空気圧
7. タイヤの溝の深さ
8. タイヤの亀裂、損傷
9. タイヤの異状摩耗
10. 灯火装置、方向指示器の汚れ、損傷



■ 運転席に座って



11. パーキングブレーキレバーの引きしろ
12. EVシステムの始動状態、異音
13. ブレーキペダルの踏みしろ
14. ウィンドウォッシャーの噴射状態
15. ワイパーの払拭状態
16. 灯火装置、方向指示器の作用



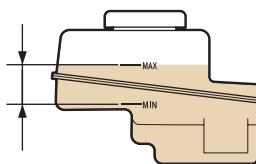
■ 走行して



17. ブレーキの効き具合
18. 低速及び加速の状態
19. 運行において異状が認められた箇所

モータールーム

1. ブレーキの液量



液量がリザーバータンクのMAX(上限)とMIN(下限)の間にあるかを点検します。

補助ライン付車は、補助ライン(上限)とMIN(下限)の間にあるかを点検します。

! 警告

- 液の減少が著しいときや、ブレーキ液面がMIN(下限)より低いときは、液漏れなどが考えられます。ただちにレクサス販売店で点検をお受けください。
- ブレーキ液は粗悪品や異なる銘柄・性能のものを混ぜるとブレーキの効き具合やブレーキ系統に悪影響を与え、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ブレーキ液:

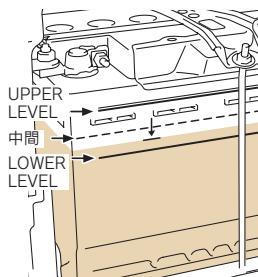
次の銘柄のブレーキ液をご使用ください。

- ・ ブレーキフルード 2500H-A(DOT3)

車種によって適したブレーキ液が異なることがあります。

詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

2. 補機バッテリーの液量(完全密閉式バッテリーは点検不要)



液面が、各液槽ともUPPER LEVEL(上限)とLOWER LEVEL(下限)の間にあるかを点検します。

点検しにくい場合は、ライトなどで側面を照らし点検します。

または、キャップを外し注入口から点検します。

バッテリー液面がUPPER LEVEL(上限)とLOWER LEVEL(下限)の中間以下のときは、UPPER LEVEL(上限)まで補充液または蒸留水を補充してください。

警告

- ショートさせたり、タバコの火などの火気を近づけたりしないでください。バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。
- 乾いた布でふかないでください。静電気が発生し爆発するおそれがあり危険です。
- 液面が不足したまま使用・充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発のおそれがあり危険です。
- バッテリー液を抜き取らないでください。バッテリー液は有害で腐食性のある硫酸を含んでいるため、取り扱いを誤ると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 万一、バッテリー液が目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗い流し、お早めに医師の治療をお受けください。

注意

- UPPER LEVEL(上限)以上補給しないでください。走行中に液が漏れて塗装面を傷めたり、過充電したときに液が噴き出し、部品が腐食したり損傷するおそれがあります。万一こぼしたときは、すぐに水できれいに洗い流してください。
- バッテリーのキャップを開けたままにしないでください。バッテリー液の中に異物が入り、バッテリーの寿命が短くなるおそれがあります。

知識

バッテリー端子の清掃やバッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

3. 冷却水の量(駆動用バッテリー、インバータ) [冷却水色:オレンジ色]



点検は冷却水が冷えているとき、駆動用バッテリー／インバーター用ラジエータリザーバータンクで行います。

(ラジエーター内の冷却水が減ると、ラジエーター／リザーバータンクから自動的に補給される構造になっています。)

ラジエータリザーバータンクの冷却水の量が、タンク側面のMAX(上限)とMIN(下限)またはFULL(上限)とLOW(下限)の間にあるか点検します。

不足している場合は、駆動用バッテリークーラント(弊社純正油脂)を水でうすめ、濃度50%にしてラジエータリザーバータンクのMAXまたはFULLまで補給します。

取扱説明書で指定された冷却水以外を補給する場合、寿命等の性能低下が発生する可能性があります。

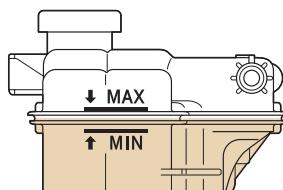
警告

ラジエーターやリザーバータンクが熱いときは、キャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどをするおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターやリザーバータンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

注意

- モータールーム内に冷却水をこぼさないでください。部品や塗装が損傷したり、EVシステムが熱いときは発火するおそれがあります。
- MAXまたはFULL以上に冷却水を補給しないでください。リザーバータンク内の冷却水が少ないときは、冷却系統の漏れなどを点検してから冷却水を補給してください。
- 冷却水の量が不足していると、ラジエーターなどに悪影響をおよぼすおそれがあるため、定期的に点検してください。また、濃度が薄い場合、寒冷時に凍結し、冷却系統に損傷を与えることにより、寿命等の性能低下につながりますので、適切な濃度でご使用ください。
- 冷却水の交換は指定された頻度で実施してください。指定された頻度で交換しないと、冷却水が劣化して、冷却系統に悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- 冷却水の交換については、レクサス販売店にご相談ください。

4. 冷却水の量(ヒータ) [冷却水色:ピンク色]



点検は冷却水が冷えているとき、ヒータ用ラジエーターリザーバータンクで行います。(ラジエーター内の冷却水が減ると、ラジエーターリザーバータンクから自動的に補給される構造になっています。)

ラジエーターリザーバータンクの冷却水の量が、タンク側面のMAX(上限)とMIN(下限)またはFULL(上限)とLOW(下限)の間にあるか点検します。

不足している場合は、スーパーロングライフクラント(弊社純正油脂)を水でうすめ、濃度50%にしてラジエーターリザーバータンクのMAXまたはFULLまで補給します。

取扱説明書で指定された冷却水以外を補給する場合、寿命等の性能低下が発生する可能性があります。

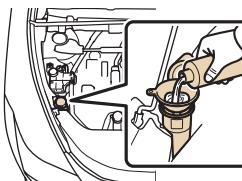
⚠ 警告

ラジエーター・リザーバータンクが熱いときは、キャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどをするおそれがあり危険です。
キャップを開けるときは、ラジエーター・リザーバータンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

⚠ 注意

- モータールーム内に冷却水をこぼさないでください。部品や塗装が損傷したり、EVシステムが熱いときは発火するおそれがあります。
- MAXまたはFULL以上に冷却水を補給しないでください。
リザーバータンク内の冷却水が少ないときは、冷却系統の漏れなどを点検してから冷却水を補給してください。
- 冷却水の量が不足していると、ラジエーターなどに悪影響をおよぼすおそれがあるため、定期的に点検してください。また、濃度が薄い場合、寒冷時に凍結し、冷却系統に損傷を与えること、寿命等の性能低下につながりますので、適切な濃度でご使用ください。
- 冷却水の交換は指定された頻度で実施してください。指定された頻度で交換しないと、冷却水が劣化して、冷却系統に悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- 冷却水の交換については、レクサス販売店にご相談ください。

5. ウィンドウォッシャーの液量



ウォッシャー液が出なかつたり、マルチインフォメーションディスプレイに“ウォッシャー液を補充してください”が表示されたら、ウォッシャー液を補充してください。

⚠ 警告

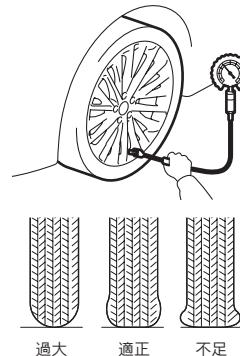
EVシステムが熱いときやEVシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、EVシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

ウォッシャー液の代わりに、石鹼水などを入れにならないでください。塗装のシミになるおそれがあります。

車のまわり

6. タイヤの空気圧



タイヤが冷えているときの、タイヤのたわみ状態(つぶれ具合)により、空気圧が適正かどうかを点検します。

空気圧不足が分かりにくいものにつきましては、空気圧ゲージを使用して点検します。

マルチインフォメーションディスプレイにて空気圧を確認することができます。

詳しくは取扱説明書をご覧ください。

空気圧が適正でない場合は、指定空気圧に調整します。
指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に表示してあります。

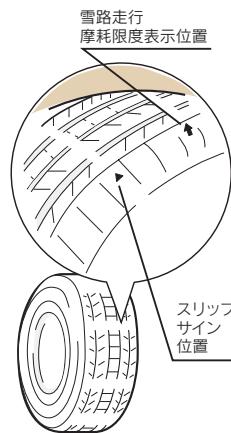


警告

空気圧が極端に少ない状態のまま走行しないでください。車両の安定性を損なうばかりでなく、高速走行時にスタンディングウェーブ現象^{*}によりタイヤがバースト(破裂)して、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※ タイヤが波うつ現象。

7. タイヤの溝の深さ



タイヤ接地面に表示されている、スリップサイン(摩耗限度表示)が現われていないかを点検します。



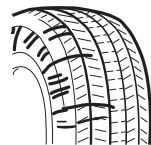
警告

- 摩耗限度をこえたタイヤはご使用にならないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象^{*}により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト(破裂)して、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※ 水のたまつた道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

- オールシーズンおよびスタッドレスタイヤは雪路走行摩耗限度表示が現れたら、(新品時溝深さの1/2に現れます)積雪路、凍結路の走行は避けてください。スリップ事故につながるおそれがあり危険です。

8. タイヤの亀裂、損傷



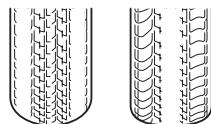
タイヤの側面や接地面に著しい傷や亀裂がないかを点検します。また、釘・石・その他の異物が刺さつたり、かみ込んだりしていないかを点検します。



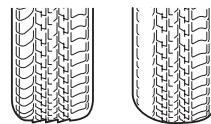
警告

異状があるタイヤは、走行時にハンドルが取られたり、異状な振動を感じることがあります。また、バースト(破裂)など修理できないような損傷をタイヤに与え、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異状な振動を感じた場合は、すみやかにレクサス販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

9. タイヤの異状摩耗



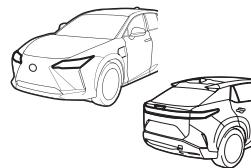
タイヤ接地面に極端な片ベリなどの偏摩耗がないかを点検します。



注意

極端にすり減っていたり、摩耗具合が他のタイヤと極端に異なる場合は、空気圧の過不足、ホイールアライメントが正しくないことなどが考えられます。
お早めにレクサス販売店で点検をお受けください。

10. 灯火装置、方向指示器の汚れ、損傷



各ランプのレンズ、反射器に、汚れや変色、破損、ヒビ割れがないかを点検します。

破損やヒビ割れ、取り付けの緩みがある場合は、レクサス販売店で修理または交換を行ってください。



知識

ヘッドライト・制動灯などのレンズは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇ると同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、レクサス販売店で点検をお受けください。

運転席に座って

11. パーキングブレーキレバーの引きしろ



EVシステムを始動し、パーキングブレーキスイッチを1秒以上押したときおよび1秒以上引いたときにブレーキ警告灯(黄色)が点灯していないことを確認します。

詳しくは取扱説明書をご覧ください。

警告灯が表示した場合は異状が考えられます。

ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

12. EVシステムの始動状態・異音

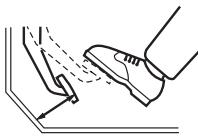
EVシステム始動時、かかり具合は良いか、異音がないかを点検します。



注意

EVシステム始動時に異音がある場合は、EVシステムを損傷させるおそれがあります。お早めにレクサス販売店で点検をお受けください。

13. ブレーキペダルの踏みしろ

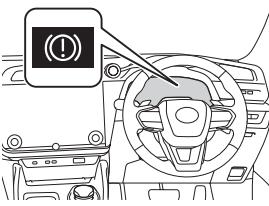


EVシステムを始動しブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、床板とのすき間を点検します。また、ペダルの感触に次の様な異状がないかを点検します。

- ペダルを踏み続けたときに、ペダルがさらに入り込む
- ペダルをいっぱい踏み込んだときの踏みごたえがふわふわ感じる

床板とのすき間は、取扱説明書のメンテナンスデータをご参照ください。

電子制御ブレーキシステム装着車は以下の方法でも点検できます。



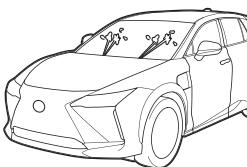
ブレーキ警告灯が点灯していないことを確認します。



警告

ブレーキペダルの踏みしろやペダルの感触に異状がある場合は、ブレーキ液の漏れ、空気の混入などにより、ブレーキの効きが悪くなったり、片方だけが効いて思わず事故につながるおそれがあり危険です。お客様ご自身で判断なさらず、必ずレクサス販売店で点検をお受けください。

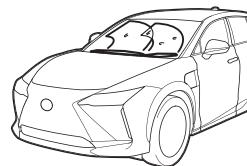
14. ウィンドウォッシャーの噴射状態



ウォッシャーを作動させて、ウォッシャー液が勢いよく噴射するか、また、ワイパーの払拭範囲のほぼ中央に当たるかを点検します。

噴射状態が悪い場合は、レクサス販売店にご相談ください。

15. ワイパーの拭拭状態



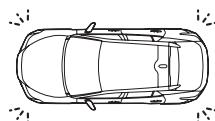
EVシステムを始動して点検します。

ウインドウォッシャーを作動させ、ウインドシールドガラスをぬらしてから点検します。

ワイパーを作動させ、「AUTOモード」「低速作動」「高速作動」「一時作動」の各作動が良いか、また、拭き取り状態が良いかを点検します。

拭き取り状態が悪い場合は、ウインドシールドガラスの清掃や、ワイパーゴムの交換が必要になります。

16. 灯火装置、方向指示器の作用



EVシステムを始動し、正常に点灯または点滅するかを点検します。

点検は壁やミラーを利用するか、他の人に見てもらって確認します。

ヘッドランプ: 点灯状態にし、点灯するか明るさが不足していないかを点検します。

方向指示灯: 方向指示レバーを左右に作動させ、全ての指示灯が点滅するかを点検します。

制動灯: ブレーキペダルを軽く踏んで、制動灯が点灯するかを点検します。

後退灯: EVシステムを作動させた(READYインジケーターが点灯している)状態でブレーキを踏みながらシフトポジションをRにして確認します。

他のランプ: 車幅灯、尾灯、非常点滅灯を作動させ、点灯または点滅するかを点検します。



パーキングブレーキをかけ、必ず輪止めをしてください。

パーキングブレーキが十分にかけられていなかつたり、輪止めをしないとお車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行して

周囲の交通状況に十分注意し、安全な場所で点検してください。

17. ブレーキの効き具合



通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検します。

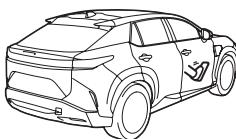
効き具合が悪い場合は、レクサス販売店で点検をお受けください。



警告

走行中、継続的にブレーキ付近から警告音(“キーキー”音)が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。ただちにレクサス販売店で点検をお受けください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなつて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

18. 低速及び加速の状態



アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。



警告

低速および加速の状態が著しく悪い場合に、そのままご使用いただくとEVシステムの損傷や、運転感覚の狂い、あるいはブレーキの効きが悪化するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

お早めにレクサス販売店で点検をお受けください。

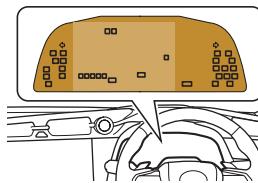
19. 運行において異状が認められた箇所

前日までの使用時に異状があつた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

異状がある場合は、レクサス販売店で点検をお受けください。

簡単な点検整備

1. ウオーニングランプ(警告灯)の点灯



パーキングブレーキをかけます。

パワースイッチをONモードの状態にし、メーター内のウオーニングランプが全部点灯することを点検します。

EVシステムを始動しシートベルトを着用して、パーキングブレーキ表示灯以外のランプが消灯するかを点検します。

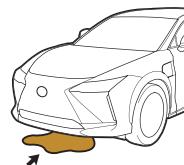
さらに、フットブレーキを一杯踏み、パーキングブレーキを解除したとき、パーキングブレーキ表示灯が消灯するか点検します。



警告

- 点灯しないランプは、バルブ切れの可能性があります。
- 警告灯が消灯しない場合は異状が考えられます。
ただちにレクサス販売店で点検をお受けください。

2. モータールーム下の路面点検



駐車したあとに、モータールーム下の路面に油や、冷却水が漏れていないか点検します。



警告
油や冷却水が漏れている場合は、ただちにレクサス販売店で点検をお受けください。



知識
油や冷却水は、色が付いていたり、粘りや臭いがあります。
透明でサラサラしていればエアコンの除湿水で異状ではありません。

3. フロアの点検



フロアに空き缶等の異物がないか確認します。また、フロアマットやカーペットがずれていなければ確認します。

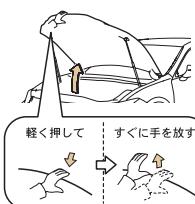
異物があれば除去し、マット類のずれをお直しください。



警告
異物があつたり、マット類がずれていたりすると、アクセルやブレーキなどペダル類の操作のさまたげになり思わぬ事故につながるおそれがあります。

4. ダンパーステー機能の点検(ダンパーステー装着車)

全開位置まで開ける



下降し続けないことを確認



下記方法により、バックドアおよびトランク、ボンネットのダンパーステーの保持力を点検します。

- ① バックドアおよびトランク、ボンネットを全開位置まで開けます。
- ② 閉じる方向に軽く手で押して、すぐに手を放します。



注意

手を放してもさらに下降し続ける場合、ダンパーステーの保持力が低下している可能性があります。レクサス販売店で点検をお受けください。
ダンパーステーの保持力が低下すると、バックドアおよびトランク、ボンネットが急に落ち、けがをするおそれがあります。